

農林水産大臣賞受賞

みんなが主役、みんなで実践！ 農村RMOで地域を元気に！

受賞者 たかまつだいさんぎょうせい く 高松第三行政区ふるさと地域協議会 ちいききょうぎかい
(はなまきし 岩手県花巻市)

■ 地域の沿革と概要

花巻市は岩手県のほぼ中央に位置し、総面積は 908.39km²、東部には北上高地の山並みが連なる肥沃な北上平野が広がり、西部には奥羽山脈の渓谷沿いに花巻温泉郷がある。

また、岩手県唯一の空の玄関口である「いわて花巻空港」を擁し、東北新幹線及び東北縦貫自動車道が市を南北に貫通し、東西の自動車道と交差しており、高速交通網の結節点となっている。農業分野においては、米づくりを基幹に麦・大豆・雑穀・野菜・果樹・花き等を組み合わせ「花巻ならではの個性ある産地」づくりを推進しており、安全・安心な農産物の生産に取り組んでいる。

高松第三行政区ふるさと地域協議会が所在する高松第三行政区は、花巻市の南東部に位置し、ひららき 平良木・うちたかまつ 内高松・ほろわ 母衣輪の3集落から構成される農村集落である。世帯数は 67 世帯、高齢化率は 46%、一人暮らしの高齢者と高齢者のみの世帯が 40%であり、JR 新花巻駅まで車で 10 分、花巻空港や高速道花巻空港 I C まで車 15 分だが、地域内を公共交通機関が運行していないため、中・遠距離の移動には自家用車が必要な地域でもある。

第 1 図 位置図



第 1 表 地域の概要

事項	内容
地区の規模	集落の集合体
組織の性格	機能的な集団等
人口等	
高松第三行政区	総人口 178人 総世帯数 68戸
農業経営体数 (内訳)	農業経営体数 3,533経営体 個人経営体数 3,374経営体 団体経営体数 159経営体 (内、法人経営体数) 96経営体
農用地の状況 (内訳)	総土地面積 90,839ha 耕地面積 15,790ha 田 13,600ha 畑 2,190ha 耕地率 17.4% 一経営体当たり耕地面積 4.5ha

出典 令和2年国勢調査、2020年農林業センサス

■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

高松第三行政区は人口減少や農業従事者の高齢化が著しい地域ではあるが、農地集積・集約を目的とした「有限会社あぐりらんど高松」、中山間地域等直接支払交付金制度に基づく集落協定など、様々な法人・団体が活動している。

また、令和5年度には「高松棚田地域振興協議会」が設立され、高松・母衣輪棚田の保全、棚田地域産農産物のブランド化・6次産業化、地域の子供たちを対象とした農作業体験等を通じて、地域振興活動を推進している。

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

行政区を構成する平良木・内高松・母衣輪の3集落は、高齢化による農業担い手不足、耕作放棄地の増加、人口減少に伴う地域コミュニティ機能の低下という課題を抱えていた。これに危機感を抱いた地域の有志6名が中心となり、平成20年3月より地域づくりのワークショップや研修会を開催し、地域住民との話し合いを重ねたその結果、同年6月に「高松第三行政区内の資源と人材を生かした活力ある地域づくり」を目的とした全世帯参加の地域協議会が設立された。

活動初期は神楽等の郷土芸能の伝承や地域景観の形成等、幅広い活動を展開していたが、平成23年度には岩手県立大学社会福祉学部の宮城好郎教授らの助言を受け、「農業」「福祉」「交流」をテーマとした「高松第三行政区ふるさと交流福祉計画」を策定し、農福連携による地域づくりが本格化した。

研修企画や連携団体の拡大に地道に取り組んだ結果、地域住民の理解が深まり、主体的な参加者が増加した。高齢者の外出支援や見守りを兼ねた配食サービス、除雪ボランティア等の活動が拡大し、現在では全国に先駆けた農村型地域運営組織（農村RMO）として活動しており、県内外の他地区にも影響を与えている。

(2) むらづくりの推進体制

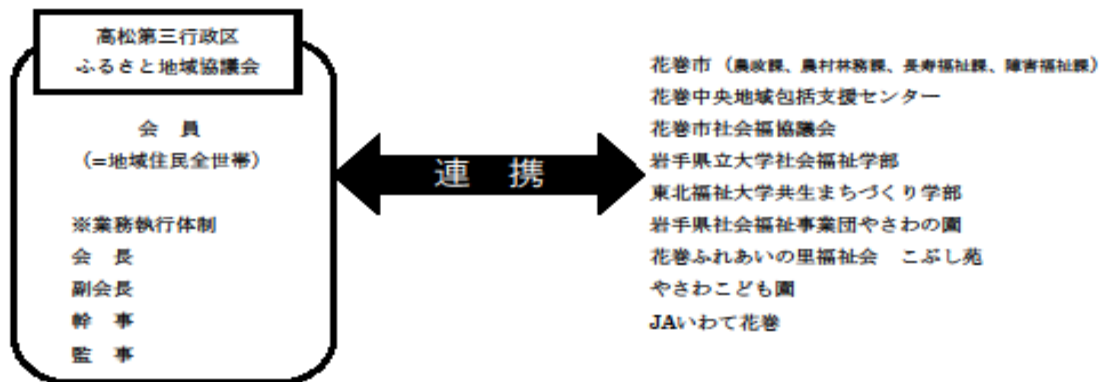
ア 当該集団等の組織体制、構成員の状況

地域協議会の構成員は、高松第三行政区に居住する者及び花巻市で構成されている。役員は、会長1名、副会長2名、幹事6名、監事3名である。業務執行にあたっては、事務局4名のほか、有限会社あぐりらんど高松、平良木集落協定、内高松集落農地管理組合、母衣輪集落協定管理組合等と連携して活動している。なお、構成員（高松第三行政区に居住する者）は、令和6年9月時点で178名である。

高松第三行政区ふるさと地域協議会の構成員と役割

- 事務局
庶務、会計、事業の企画・運営
- 地域住民
福祉農園、農産物の加工販売、生活支援、棚田振興事業等への参加
- 有限会社あぐりらんど高松
地区内の担い手として水稻、大豆、野菜等を栽培
- 平良木集落協定、内高松集落農地管理組合、母衣輪集落協定管理組合
中山間地域等直接支払制度の集落協定として耕作放棄地の発生防止、水路・農道の管理活動等

第2図 連携体制



イ 当該集団等と連携してむらづくりを行う他の組織、団体及び行政との関係

① 農村版地域包括ケアシステムの構築

平成30年度に日本生命財団の「地域福祉チャレンジ活動助成」を活用し、福祉農園を中心とした地域人材の活用による「農村版地域包括ケアシステムの構築」を目的として、住民主体によるビジョンの作成、耕作放棄地の活用による福祉農園の拡大、福祉農園で収穫された農産物を活用した配食サービス等の実施に取り組んだ。



写真1 ビジョン作成の様子

【連携する主な組織・団体】

花巻中央地域包括支援センター、花巻市福祉協議会、岩手県立大学、東北福祉大学、JAいわて花巻、岩手県社会福祉事業団やさわの園、やさわこども園

② 低利用農地を活用した福祉農園の設置

障がい福祉サービス事業所やこども園と共同で、低利用農地を活用した福祉農園を設置し、ガマズミ、ナツハゼ、サツマイモ等を栽培している。地域の高齢者、障がい福祉サービス事業所の利用者、園児等が交流しながら農作業を実施している。



写真2 福祉農園

【連携する主な組織・団体】

岩手県社会福祉事業団やさわの園、花巻ふれあいの里福祉会こぶし苑、やさわこども園

③ 農産物の加工販売

福祉農園で収穫された農産物については、市内の就労継続支援B型事業所と連携し、ガマズミ及びナツハゼはゼリーに、サツマイモは干し芋に加工して販売している。

【連携する主な組織・団体】

花巻ふれあいの里福祉会こぶし苑、JAいわて花巻

④ 配食サービス、外出支援など生活支援の実施

福祉農園で収穫された農産物を活用した弁当を、一人暮らしの高齢者宅へ配達する配食サービスを実施している。これは見守りサービスを兼ねており、外出支援や除雪支援にも取り組んでいる。

【連携する主な組織、団体】

花巻中央地域包括支援センター、花巻市社会福祉協議会



写真3 農産物加工品



写真4 外出支援

⑤ 棚田の振興

棚田地域で生産された米等の農産物や特産加工品を「ふるさと宅配便」として販売するほか、花巻市内で開催されるマルシェへ出店するなど、新たな販路の開拓に取り組んでいる。これらの活動を通じて、交流の促進及び関係人口の創出につなげている。

【連携する主な組織、団体】

農業者団体、花巻市、岩手県

■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

協議会設立前においては、農村地域の課題は「個々の農家」で解決し、高齢者の生活支援に関する悩みは「個人の問題」として対処するという考え方が一般的であった。しかし現在では、農業や生活に関する課題の解決策を地域住民が共に考える場として、地域協議会が機能している。

(1) 地域資源の活用に向けたワークショップへの参加

地域協議会は教育機関と連携し、地域外から講師や専門家を招いて、地域資源に対する新たな視点を学ぶ場や交流の機会を提供している。これにより、地域資源の見直しや活用に向けた意識啓発が進み、ワークショップに参加した住民からは、里山に自生するガマズミ及びナツハゼを福祉農園に作付けするというアイデアが提案された。

(2) 低利用農地を有効活用した地域活性化

地域協議会は、遊休農地や耕作放棄地を活用して福祉農園を設置するとともに、ふるさ

と農園を17区画(計10a)整備し、地域内外の者が利用している。地元の高齢者が利用者に対して農作業のコツを伝授するなど、交流の場としても機能している。

(3) 景観形成活動

旧花巻市時代に「花巻八景」に選定された「平良木の立岩」周辺の草刈りを、全世帯参加で実施している。地域協議会は特に移住者に対して積極的に参加を呼びかけており、地域資源の認知と景観維持に対する意識の醸成を図るとともに、移住者の地元定着にも取り組んでいる。



写真5 景観維持作業

2. 農業生産面における特徴

(1) 農用地のほ場条件の改善

当該地区は平地農業地帯に分類されるが、小区画の水田が棚田状に広がっており、知事特認の中山間地域に指定されている。農用地のほ場条件改善のため、地域協議会の構成員で組織される有限会社あぐりらんど高松等が農地整備事業の実施に向けて取り組んだ結果、平良木地区の農用地約70haについて、県営ほ場整備事業(農地中間管理機構関連農地整備事業、事業工期:令和元年度~令和8年度)を導入し、令和3年度から令和5年度にかけて区画整理が実施された。



写真6 ほ場整備地区

区画整理にあわせて、給水栓の遠隔装置の設置、法面勾配の緩傾斜化、排水路の暗渠化等、スマート農業に対応する整備が行われた。令和6年度には区画整理の仕上工等を実施中であるが、一時利用地指定により作付けが可能となっている。

(2) 農作業の省力化と農地の活用

ほ場整備事業の実施により、担い手の農地集積率は令和元年度の40.4%から令和5年度には63.4%に向上しており、事業完了予定の令和8年度には95.1%に達する見込みである。

また、給水栓の遠隔装置の設置により、水管理時間は整備前の約10分の1に軽減されると試算されている。さらに、リモコン草刈機の導入により草刈り作業時間は整備前の約4分の1に短縮されるとされており、農作業の省力化による生産力の向上が期待されている。



写真7 リモコン草刈機

ほ場整備地区外の低利用農地については、ふるさと農園や福祉農園の設置により活用面積が増加している。また、連携する市内の就労継続支援B型事業所において、福祉農園の収穫物をゼリーや干し芋に加工して販売しており、その売上は高齢者の収入確保や障がい

福祉サービス事業所利用者の賃金向上に寄与している。

(3) 経営拡大と女性の参画

ほ場整備事業の実施により、担い手である有限会社あぐりらんど高松は、スマート農業の導入による農作業の省力化・効率化によって確保された労働力を活用し、水稻及び大豆に加え、ブロッコリーやえだまめ等の高収益作物の作付けを拡大する予定である。

福祉農園では、地域内の 60 歳から 80 歳の女性を中心に、障がい福祉サービス事業所の利用者や園児たちが交流しながら農作業に取り組んでいる。収穫物の加工品の売上高は年間 150 万円から 160 万円で安定して推移しており、高齢者の収入確保や障がい福祉サービス事業所利用者の賃金向上に貢献している。

3. 生活・環境整備面における特徴

(1) 全世帯参加での環境整備

花巻市の自然と文化を象徴する場所として親しまれている「平良木の立岩」は、その自然景観の美しさから旧花巻市時代に「花巻八景」に選定された名所である。この周辺や公民館周辺の草刈り、共同墓地及び農業用水路の管理等の環境整備・景観形成活動を、全世帯参加により実施している。特に、移住者に対して積極的に参加を呼びかけることで、地域資源の認知と景観維持、郷土愛の醸成を図っており、移住者の地元定着にもつながっている。

(2) コミュニティ活動の強化

平成 26 年度より、福祉農園で収穫された農産物を活用した弁当を一人暮らしの高齢者へ配食する、見守りを兼ねたサービスを開始し、平成 28 年度には外出支援の取り組みを開始した。

また、農山漁村振興交付金（平成 28～29 年度）を活用して外出支援を試行し、厚生労働省の介護予防・日常生活支援総合事業（平成 30 年度～令和元年度）を活用して、本格的な生活支援活動に取り組んだ。

令和 2 年度以降は、中山間地域等直接支払制度における平良木集落協定、内高松集落農地管理組合、母衣輪集落協定管理組合と連携し、集落機能強化加算金を活用して、外出支援、見守り活動を含む配食サービス、除雪支援に取り組んでいる。

令和 6 年度においては、外出支援 113 回、配食サービス 12 回、除雪支援 9 回の実績を上げている。

協議会設立当初から開始したふるさと農園は、地元住民の利用が多く、地区外の利用者から野菜づくりについて教を請われるなど、地区外の人々との交流の場にもなっている。ふるさと農園及び福祉農園への来訪者は、平成 30 年度の約 1,700 人から令和 4 年度には約 2,200 人に増加しており、他地域の住民との交流に大きく寄与している。



写真 8 ふるさと農園

(3) 定住促進と女性の活動参画

平成 20 年度の協議会設立以降、11 世帯が新たに移住し、2 世帯が U ターン移住を果たしている。これらの移住者は、消防団員や公民館役員、地域内の交流事業「ふるさと花火大会」の企画運営を担うほか、狩猟免許を取得して鳥獣被害の拡大防止活動に取り組むなど、地域活動の重要な担い手として活躍している。

女性の活動参画については、協議会役員に 2 名、事務局に 1 名の女性が在籍しており、生活支援や福祉農園の取り組みを中心に活躍している。事務局を担う女性は、夫婦での移住を機に市内中心部で弁当店を起業し、配食サービスの弁当製造、見守りを兼ねた配達ドライバー及び外出支援のドライバーを務めている。

協議会の幹事を務める女性は、配食サービスの配達ドライバーを担うほか、新たな収益の創出に向けて地域農産物を活用した加工品開発に取り組んでおり、福祉農園で収穫されたガマズミやナツハゼを使用したゼリーを商品化している。このゼリーは特産品として市内の産地直売所で販売されるほか、地元を離れた地域出身者に「ふるさと宅配便」として届けられている。

U ターンで移住した看護師資格を持つ女性は、協議会の幹事を務めるとともに、地域で開催される花火大会や秋祭り等の行事において「健康相談コーナー」を開設し、地域コミュニティの活性化に貢献している。



写真 9 移住者が地域活動で活躍